



実践団体・プラン基本情報

実践団体の基本情報

記入日	西暦2024年1月10日 (2023年度のチャレンジプラン)
プラン名	グローバル社会における「防災教育」
実践団体名	下北 BOUSAI ネットワーク (むつ市内4校合同プロジェクト)
代表者名	千葉栄美(青森県立大湊高校校長) 担当者:南澤英夫
電話番号	0175-24-1244
メールアドレス	: durian2400@gmail.com
実践団体の説明	令和4年度にむつ市内の県立学校4校で組織した、「防災」を学び・研究・実践に取り組む団体である。4校が緩やかにつながり、それぞれの得意分野で「防災」にとりくんでいる。
所属メンバー	青森県立大湊高等学校 青森県立むつ工業高等学校 青森県立田名部高等学校 青森県立むつ養護学校
活動の本拠地	〒035-0096 青森県むつ市大湊字大近川44-84 青森県立大湊高等学校(事務局校)
活動開始時期・結成時期	2022年4月
過去の活動履歴・受賞歴	令和4年度青森県高等学校総合文化祭 国際理解部門:研究発表 優良秀賞 (大湊高等学校) 令和5年度青森県高等学校総合文化祭 国際理解部門:研究発表 優秀賞 (大湊高等学校) 令和5年度第10回青森県総合学科高等学校研究発表会 最優秀賞 (大湊高等学校)

プランの基本情報



プランでの実践主体	1. 学校・教育関係 むつ市内4校合同プロジェクト
プランの運営側の人数(実数)	約50人(4校の中心生徒) 参加生徒は約1300名
プランの活動地域	青森県むつ市(講演会・研修会) 岩手県宮古市田老地区(研修) 福島県・東京電力福島第一原子力発電所(研修) 研究発表(青森県高等学校総合文化祭:大湊・田名部) 研究発表(令和5年青森県総合学科高等学校研究発表会)
プランの防災教育の対象者	7. 高校生 10. 教職員・保育士等 11. 保護者・PTA 12. 地域住民 16. 支援学校等児童生徒 19. 防災関係者
防災教育の対象者の人数(実数)	約1400人 生徒(1300人) 一般(100人)
プランが対象とする災害	1. 地震 2. 津波 4. 土砂災害 6. 雪氷災害 9. 災害全般 10. その他(具体的に:原子力災害)
プランの活動目的	1. 防災意識を高める 2. 災害を想定した訓練 3. 防災に関する知識を深める 4. 遊び・楽しみの要素を入れた防災 6. 災害に強い地域をつくる 7. 災害対応能力の育成
対象者が身につく知識・技能等	1. 地震・津波・火山災害 3. 災害時に発生する課題・影響 4. 過去の教訓が教える対応策 7. 災害発生時に身の安全を確保するための行動
プランの活動形態	1. イベント・行事 2. 講習会・学習会・ワークショップ 3. 講演会・シンポジウム 5. 教科(美術・書道・家庭科) 8. 学校内の諸活動 9. 放課後の部活道(サークル)等 12. 体験学習 13. 避難・防災訓練 14. 研究
プランでの連携先	1. 学校・教育関係 3. 保護者・PTA 7. それ以外の地域組織 8. 国・地方公共団体 9. 公共施設 11. ボランティア 16. 個人 17. その他(具体的に:防災士会)
実践にかかった金額	約250万円 300万円未満



プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	担当者会議		
5月	担当者会議		
6月			岩手県宮古市田老町研修
7月	担当者会議		
8月	担当者会議		東京電力福島第一原発研修
9月			合同研修報告会
10月			生徒主体の防災訓練（田名部高校） 青森県高校総合文化祭発表
11月			全国防災書道展
12月			生徒主体の防災訓練（大湊高校） 防災映画 上映会 総合学科研究発表大会（大湊高校）
1月	担当者会議		東日本大震災メモリアルDay 参加 能登半島地震募金活動（4校合同） PTA 地区研修会（PTA 対象にワークショップを実施）
2月	担当者会議		東日本大震災研修（宮城県） 青森県総合研究発表会参加
3月	担当者会議		



実践したプランの内容

プラン全体の概要

- 1 災害を学ぶ（現地研修）
- 2 事実を伝える（研修報告）
- 3 防災を研究する（研究・研究発表大会）
- 4 防災をデザインする（避難・防災訓練の計画と実施）
- 5 防災を広める（自治体との連携）
- 6 防災を考える（教科との連携）

大きく 6 つの取り組みを行った。

1 「災害を学ぶ」では被災地（岩手県宮古市田老市地区・東京電力福島第一原発）で研修を行った。



2 「事実を伝える」では、その研修内容を各校および合同報告会で報告した。

3 「防災を研究する」では、避難所や災害弱者について研



究し、その成果を2つの研究発表大会で発表。また、PTA
研修会ではワークショップを行った。



4「防災をデザインする」では、生徒主体の「原子力災害
を想定した訓練」を計画・実施した。

青森県立田名部高等学校の取り組み

- ・原子力災害を想定した避難訓練
- ・浸水を想定した垂直避難訓練

生徒が企画・実施しました

原子力災害を想定した避難訓練の様子

下北での原子力施設と避難経路(クイズ)

5「防災を広める」ではむつ市長を訪問し、R6年度のむつ
市の防災に取り組みについて話し合い、むつ市の次年度の
計画に盛り込んでいただいた。



防災士2名合格・自治体と学校の連携協力をお願い

6 「防災を考える」では、書道・家庭科・美術・保健体育と連携し、それぞれの教科で防災について取り組んだ。

プランの「チャレンジ」の結果

学校単独ではなく、地域の高等学校、特別支援学校が連携して行う防災教育活動を行った。学校連携の防災は新しいチャレンジである。

4校が緩やかにつながり合同研修会や・報告会を実施するだけでなく、各校がそれぞれの得意分野で研究・実践を進めた。また、各校で取り組んだ企画や資料は共有財産をして活用している。特に「原子力災害を想定した 避難・防災訓練」は、原子力関連施設がない地域でも活用できる内容であり、今後全国に発信していきたい。

災害弱者(特に外国人)に対し、どのような配慮、手立てが必要なのかを研究および検証した。研究に関しては、青森県の総合学科研究大会で発表し最優秀賞を受賞し、高く評価された。

さらに避難所について学習し「避難所レイアウト」を完成させた。簡易トイレ・防災かまど、ごみ置き場・物資の保管場所など災害時を想定して、どんな人が避難所の運営者となった場合でもできる「基本レイアウト」を防災士、市の防災安全課と共に作り上げることが出来た。

また、多くの教科と連携し、教科として防災に取り組んだ。具体的には美術では「防災ピクトグラム」の制作、書道では「全国防災書道展」への参加、家庭科では「防災食研究」、保健体育で



	<p>は、「防災・避難訓練」などで、教科横断的に防災に取り組んだ。</p> <p>「防災を広める」では、防災士に2名の生徒が合格。そして、その報告を山本知也むつ市長に報告した。その際、下北むつ地区での防災士の資格取得が難しいことを説明し、次年度むつ市が防災士養成に積極的に支援をいただけるという確約をいただいた。さらに災害ピクトグラムの改善についても次年度の事業計画に盛り込んでもらえることとなった。</p>
--	--

<p>実践内容・方法・成果</p>	<p>多くの活動を展開したが、今回は特に「防災をデザインする」～原子力災害を想定した防災訓練～ について説明したい。</p> <p>原子力災害を想定した避難訓練は、ほとんどの学校で実施できていない。</p> <p>今回のプランは、下北での研修旅行中に起こったという前提で実施すれば、全国どこの学校でも実施可能である。1時間という時間で実施できるよう計画されており、今後の原子力災害を想定した避難訓練のモデルプランとなる。</p> <p>目的 原子力災害を体験的に学ぶ</p> <p>内容 (1)原子力災害を想定した避難訓練 (2)下北 BOUSAI ネットワーク研修報告 (3)東日本大震災語り部による講演会</p> <p>時間 2時間</p> <p>場所 体育館</p> <p>想定 実施校が青森県下北に研修旅行に来たことを前提に、実際原子力災害に遭遇したことを想定して行う。</p> <p>展開</p> <p>01 映像が流れる 地震速報が入る</p> <p>02 放送で安全確保の指示 安全確保に関する問題</p> <p>03 放送で原子力災害の発生の連絡 映像:Fukushima50の視聴(原子力災害をイメージする)</p> <p>04 クイズ:原子力災害時の避難経路(選択)</p> <p>05 04の正しいと思う行動の場所へ移動(体育館4か所)</p> <p>06 人数のカウント後 自席に戻る</p> <p>07 映像:原子力発電の仕組みと東日本大震災 (むつ工業高校制作映像)</p> <p>08 下北むつ地区における原子力災害時の避難について</p>
-------------------	---



	<p>04クイズの解説</p> <p>09 福島第一原発研修報告</p> <p>10 6校時:講演会</p> <p>11 質疑応答</p> <p>12 各 HR で振り返り</p> <p>詳しい実施内容については、次ページからの資料を確認してください。</p>
--	--



修正版

令和5年11月15日
生徒指導部
下北 BOUSAI ネットワーク

令和5年度 第3回防災避難訓練 実施計画 (案)

- 1 目的 ・本校の立地上必要な「原子力災害」について体験的に学ぶ。
- 2 日時 令和5年12月12日(火) 13時15分～15時15分
・午前4時間45分短縮授業 午後通常
- 3 内容 (1) 原子力災害を想定した避難訓練
(2) 下北 BOUSAI ネットワーク研修報告
(3) 齋藤幸男氏(東日本大震災語り部)による講演会
- 4 全体の流れ
12時20分～13時05分 昼休み
13時05分～13時15分 生徒は椅子を第一体育館へ移動する
13時15分～14時10分 防災訓練
14時10分～14時20分 休憩
14時20分～15時10分 講演会
15時10分～15時15分 移動
帰り SHR ～翌日 振り返り(Forms)
- 5 実施方法 生徒主体のプロジェクト形式(下北 BOUSAI ネットワーク研修参加者中心)で行う

6 全体の流れ(詳細)

開始	終了	HRの動き	プロジェクトチームの動き
昼休み 12:20～13:05 移動 13:05～13:15		全校生徒は椅子を第一体育館へ移動 1年→3年→2年 生徒指導部(越田)	①体育館(プロジェクター・スクリーン等) 準備 生徒会(戸田) 放送(中村) ②PC 南澤
13:15	13:25	放送の指示に従って危険回避のための行動をとる。	①地震発生を知らせる放送を流す。 ②危険回避のための行動をとるように呼びかけ。
13:25	13:35	各自の席で映像を見る。	①「Fukushima50」の映像を流す。
13:35	13:40	放送の指示に従い 生徒は各自で選択した場所へ移動	①原発事故を知らせる放送を流す。 ②画面で選択肢を提示、選択肢に対応した場所に移動するように指示する。 ③確認生徒は各場所の人数を数え本部に報告
13:40	13:45	放送の指示に従って自席に戻る	
13:45	14:10	原子力災害について	①原子力発電の仕組みと東日本大震災 ②当地区における原子力災害時の避難について ③福島第一原発研修報告
14:10	14:20	休憩	講演準備
14:20	15:10	講演会 講師: 齋藤幸男氏 演題: 東日本大震災について	司会進行 運営 講師の案内
15:10	15:15	教室移動	

7 原子力災害時の避難場所

	選択肢の内容	移動する場所	担当
①	外に避難 (迎えに来た家族も同伴可能)	体育館ギャラリー	1年次 副担 BOUSAI 生徒
②	教室に避難 (迎えに来た家族も同伴可能)	体育館ステージ側	3年次 副担 BOUSAI 生徒
③	迎えに来た家族と共に脇野沢方面に逃げる	体育館 後方	2年次 副担 BOUSAI 生徒
④	迎えに来た家族と共に青森方面に逃げる	第二体育館	渉外部(半田) BOUSAI 生徒



- ・担当の先生は、BOUSAI 生徒と一緒に逃げてきた人数の確認をお願いします。
- ・担当の先生以外は、体育館で生徒の動きをご確認ください。クイズへの参加は歓迎します。
- ・放送で、10人1グループでまとまって座るように指示します。動きの悪い生徒のアシストをお願いします。
- ・人数のカウントが終われば、BOUSAI 生徒が本部に人数を連絡します。
- ・第二体育館は人数確認後、すぐに第一体育館へ戻ってきてください。

8 役割分担

	準備内容	担当	
1	第一体育館 椅子整列	生徒指導部・各年次	
2	第一体育館 機材準備 プロジェクター・スクリーン・PC・放送機材	生徒会 BOUSAI ネットワーク	みんな
3	第一体育館 パイプ椅子 (50脚)	1年次	体育館入場後
4	第一体育館 講師席	1年次	体育館入場後
5	8月福島研修 PPT (5分程度)	BOUSAI ネットワーク	原子紗季 平山春菜
6	原子力災害について PPT (説明用)	BOUSAI ネットワーク	笹森小夏 坂井朱莉
7	後援会用 PPT	BOUSAI ネットワーク	

④ 5校時 原子力災害・避難訓練

1	体育館ギャラリでの指示・安全確認等 人数確認&報告	1年次 副担 BOUSAI ネットワーク	北上咲太郎 相内聖和
2	体育館ステージ側での指示・安全確認等 人数確認&報告	3年次 副担 BOUSAI ネットワーク	伊勢田麗 高田七海
3	体育館後方での指示・安全確認等 人数確認&報告	2年次 副担 BOUSAI ネットワーク	笹森小夏 平山春奈
4	第2体育館での指示・安全確認等 人数確認&報告 (トランシーバーで)	渉外部 (半田) BOUSAI ネットワーク	川畑真輝 杉浦龍空
5	避難訓練・放送担当	南澤・向谷地 BOUSAI ネットワーク	小山田優那 平川柚帆
6	司会		藤崎まなか 相馬麻鈴
7	原子力発電の仕組みと東日本大震災 当地区の原子力災害時の避難について PPT 解説		坂井朱莉 平山春奈
8	福島第一原発研修報告 PPT 解説		原子紗季 笹森小夏
9	振り返り (Forms)	栗林・BOUSAI ネットワーク	澤田希実 小笠原瑠香
10	来校者・報道関係対応	柴田・富岡	
11	記録写真	原・横山	

※ 来校者 (予定) むつ市防災安全課・防災士会・報道関係

6校時 講演会

1	司会進行	BOUSAI ネットワーク・南澤	大高陽和 松木羽菜
2	質問マイク担当	BOUSAI ネットワーク	賀佐悠玖 成田大洋
3	PC・パワーポイント操作	BOUSAI ネットワーク	村馬瑠夏 西山美夢
4	パイプ椅子 講師席 片付け	2学年	
5	放送機材等 片付け	生徒会・BOUSAI ネットワーク	みんな
6	講師 控室までの送り迎え	BOUSAI ネットワーク	中村遙菜 中村ほのか
7	講師控室 (2学C) 湯茶 (ペットボトル2)	キャリアデザイン	
8	記録写真	原・写真部	

9 振り返りについて

- (1) 振り返りは Forms を利用して行います。当日クラスルームにアップします。
 - (2) 振り返りは当日、または、翌日打ち込みしやすい時間を確保して行ってください。
- ※ Forms 多数の同時接続でトラブルが考えられますので、適宜行ってください。



5時間目 原子力災害時の避難訓練シナリオ（生徒には流れ、内容を括さないでください）

- 01 映像が流れる 地震速報が入る
- 02 放送で安全確保の指示 安全確保に関する問題
- 03 放送で原子力災害の発生の連絡
映像：Fukushima50 の視聴（原子力災害をイメージする）
- 04 クイズ：当地区における原子力災害時の避難経路（選択）
- 05 04の正しいと思う行動の場所に移動（4か所）
- 06 人数のカウント後 自席に戻る
- 07 映像：原子力発電の仕組みと東日本大震災（むつ工業高校制作映像）
- 08 当地区における原子力災害時の避難について
04クイズの解説
- 09 福島第一原発研修報告
- 10 6校時：講演会
- 11 質疑応答
- 12 各HRで振り返り



プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。
該当するものについて具体的な例を挙げながら記入をしてください。

この項目は任意項目であり、全てを埋める必要はありません。当てはまるもののみ記入してください。

1. 【準備段階】 <u>運営側の担当者を決める際の工夫</u> 例：役割分担を明確にした	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局校が予算・決算を行う。 ・無理せずできる範囲で、各校が担当する。
2. 【準備段階】 <u>地域のキーパーソンと連携する際の工夫</u> 例：自治会と連携をした	<ul style="list-style-type: none"> ・青森県防災士会むつ支部との連携。 ・むつ市防災安全課との連携 ・下北広域消防との連携
3. 【準備段階】 <u>運営側を組織化する際の工夫</u> 例：協議会を作った	<ul style="list-style-type: none"> ・下北 BOUSAI ネットワークを立ち上げた。
4. 【準備段階】 <u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u> 例：活動範囲を限定した	<p>「Think Globally、 Act Locally」</p> <p>視点はあくまでも世界規模で、実際の活動は地元を中心に行った。</p>
5. 【準備段階】 <u>準備時間を確保する際の工夫</u> 例：定例の打ち合わせを設けた	各校関係者とはメール・電話での打ち合わせが中心
6. 【準備段階】 <u>活動場所を確保する際の工夫</u> 例：公民館などを無料で使用した	<p>学校・図書館（無料）・文化会館（有料）</p> <p>時期と場所を考慮し柔軟に対応した。</p>
7. 【準備段階】 <u>活動資金を確保する際の工夫</u> 例：自治体の助成金に応募した	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育チャレンジプラン ・三菱みらい育成財団 ・地域開発研究所（むつ市にある公益財団法人） <p>以上3つ団体の助成金に応募した。</p>
8. 【準備段階】 <u>知識や情報を収集する際の工夫</u> 例：専門家による勉強会を開いた	<ul style="list-style-type: none"> ・防災士会と共同で研修会を実施した。 ・市の防災安全課による研修会を開いた。 ・講演会を実施し、知識のつく特に務めた。
9. 【準備段階】 <u>教育・訓練プログラムや教材を作成する際の工夫</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験型・参加型のワークショップを参考にした。 ・Web サイトの情報を積極的に収集した。



例：web サイトを引用した	
10. 【実行段階】 <u>経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫</u> 例：実行委員に助言を求めた	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災士、市の防災安全課や消防に助言を求めた。 ・ 斎藤幸男氏（元石巻西高校校長・防災士）からアドバイスをいただき、東日本大震災被災地での研修を実施した。
11. 【実行段階】 <u>地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫</u> 例：行政・自治会等と共催した	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災に関する映画上映では、文化会館に共催団体として協力していただき、会場費などの便宜を受けた。 ・ 多くの活動に対し、報道各社の協力をいただいた。事前の告知、そして、実施後の報道など一般市民にも活動の内容が届いた。
12. 【実行段階】 <u>活動時間を確保する際の工夫</u> 例：総合学習の時間に実施した	それぞれの学校が、無理せずできるよう調整した。
13. 【実行段階】 <u>活動経費をなるべく抑える際の工夫</u> 例：必要物品を消防署から借りた	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災食をむつ市から無料で提供していただいた。合計約400食を提供していただいた。 ・ 下北文化会館との共催による会場費の節約、図書館会議室の経費無料など、多く団体から便宜供与を受けた。
14. 【実行段階】 <u>他の実践団体と交流する際の工夫</u> 例：中間報告会でプログラムを紹介してもらい共有した	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本ジオパーク全国大会や下北ジオパーク推進協議会、青森県高等学校文化連盟、青森県総合学科研究発表会、PTA 下北むつ地区協議会など、防災以外の関連団体とも協力し、様々な機会を通じて防災について話題を提供していただいた。
15. 【継続段階】 <u>後任者を育成する際の工夫</u> 例：若手を入れた	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先生方に協力をお願いし、多くの人を巻き込むようにした。 ・ 生徒間で縦のつながりができるよう工夫した。
16. 【継続段階】 <u>活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫</u> 例：引き継ぎ書を作った	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文書や映像にまとめた。
17. 【継続段階】 <u>活動の成果を外部に発信する際の工夫</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究発表大会へ参加した。 ・ 各学校の HP で防災活動の紹介と発信を行った。



<p>例：web サイトで発信した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・報道関係に積極的に取材していただいた。 ・むつ市長の X (ツイッター) で紹介していただいた。
<p>18. 【継続段階】 <u>活動内容を見直す際の工夫</u> 例：振り返りの会を開催した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Googlefoam を利用し、参加者の評価や感想をフィードバックした。

<p>今後の活動予定・今後の展開</p>	<p>今年度は実施一年目であったが、東日本大震災被災地での研修、防災士を交えてのワークショップ、全校を巻き込んだ報告会、新しい防災訓練プランのデザインと実施、各種研究大会への参加など、多くの防災に係る事業を展開してきた。次年度も、基本的には同じ内容で活動を展開していきたい。</p> <p>次年度以降特に取り組みたい内容としては、「防災を日本の文化に」= 防災の世界発信を取り組みたい。2023年には、トルコ・シリア大震災、そして、2024年には能登半島大震災があった。日本は様々な災害があり、防災の智慧がある。「災害の経験を、防災の智慧を世界に伝える」</p> <p>「防災を日本の文化に」として、世界に発信することで世界に貢献したいと考えている。</p> <p>また、戦争（ウクライナ・ロシア/パレスチナ・イスラエル）も続いている。戦争は人によって防ぐことができる。戦争は人が起こした災害（人災）であり、「防災」として取り組むべきという視点から取り組んでいきたい。</p>
----------------------	--



この項目は任意項目です。当てはまるものがあれば記入してください。

その他（PRポイントなど）	
---------------	--